

# アライグマの被害対策



## アライグマの生態と特徴 【生態を知って被害を防ごう】

### ■身体能力・行動の特徴

#### ① 木登りや泳ぎが得意

するどい爪や歯を持ち、個体によっては気性が荒く、引っかいたり噛みついたりすることもあります。木登りや泳ぎが得意で水辺（河川やため池、湖沼などの周辺）を好み、用排水路や暗渠を移動経路として利用しています。



#### ② 夜に行動する

夜行性で、昼間は樹洞や巣穴、および家屋の屋根裏、作業小屋、廃屋などの中で休息しています。行動圏は餌の分布などの季節的な要因によって変動するので、年間を通して同じ場所には留まりません。

### ■生活や繁殖の特徴

#### ① 水辺を好む

平地から山地まで幅広く生息することができ、中でも水辺環境を好みます。適応能力も高く、民家の屋根裏や神社などをすみかにすることがあります。

#### ② なんでも食べる

雑食性で、木の実や農作物、カエルや魚、昆虫など何でも食べます。

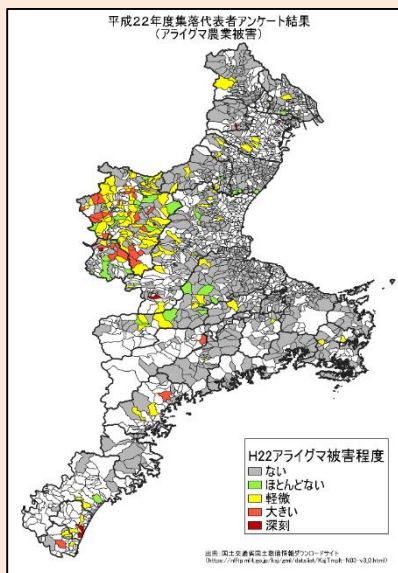
#### ③ 平均4頭を毎年出産する

メスは1歳、オスは2歳で繁殖可能となります。年1回、3~6頭（平均4頭）の子どもを夏から秋にかけて産みます。

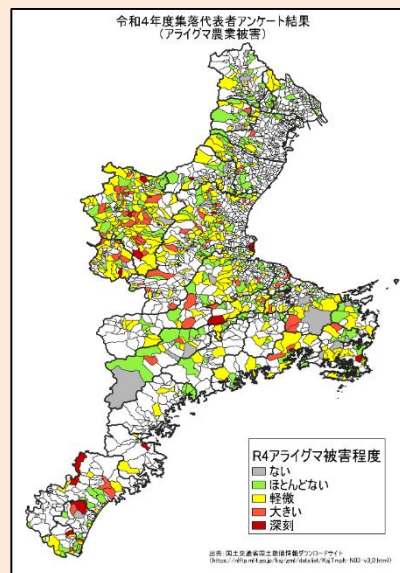
### ■三重県内での分布

三重県では近年、ほとんどの地域で分布が確認され、被害が発生しています。三重県が毎年実施している県内各集落の代表者を対象としたアンケート調査結果によると、「アライグマによる農業被害」が「大きい・深刻」と回答した集落数は、平成22年度の36集落が令和4年度は106集落と増加傾向にあります。

#### 平成22年度



#### 令和4年度



- ✓ 分布拡大
- ✓ 農業被害を受けた集落数の増加

## 被害の特徴

アライグマは収穫期の田畑や果樹園などに侵入し、農作物を食べます。被害が多い農作物はスイカ、ブドウ、イチゴ、トウモロコシなどです。長い5本指を持つのでとても器用で農作物に穴をあけ、前足で中身をくり抜いたり、きれいに皮を剥いて食べます。

被害は農作物だけではなく、母親は屋根裏などに侵入し、出産や子育てをすることがあるので、柱や壁を引っかけて傷つけたり、家を糞尿で汚し生ゴミをあさるなどの生活環境被害も起こります。



(写真: 埼玉県農林総合研究センター古谷氏提供)

## 捕獲の方法

外来動物で繁殖能力が高いアライグマに対しては、被害を防ぐだけでなく**集団全体を捕獲**しないと個体数を減少させることは出来ません。

アライグマは足の指が長く器用に物を掴むことができるため、高いところへ登ることも得意です。このためワイヤーメッシュなどの金網柵ではなく、アライグマの体高に合わせた**10cm間隔の3段構造の電気柵**で被害農地を**囲い、その周辺で捕獲**すると効率的に捕獲できます。



電気柵設置状況

### 箱わな

箱わなは現在最も多用されているアライグマの捕獲器具です。アライグマ捕獲用の箱わなは、中型哺乳類用の金網製のものが一般的で、わなの大きさは高さ30cm 幅27cm 奥行き80cm 程度のもがよく用いられています。

### エサ

アライグマは**甘みのある餌**に誘引されやすい傾向にあります。多く使われているのは、甘みのあるコーン菓子や揚げパン、果物などですが、これらの餌はアリなどの昆虫やネズミなどの小動物によって持ち去られやすいので注意が必要です。魚や肉などはネコやタヌキなどの誤捕獲が起こりやすいので避けます。わなの入り口付近にも餌を撒いておくことで、わなに侵入しやすくなることも有効です。



小型箱罠設置状況

### 設置場所

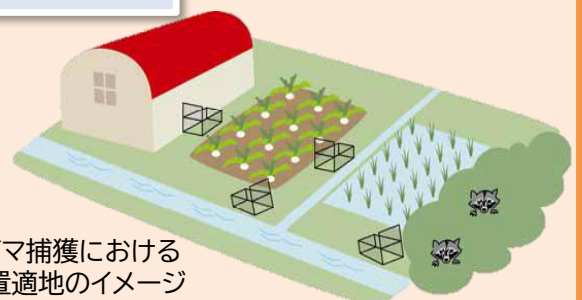
わなの設置場所は食痕や足跡などの痕跡があり、できるだけ直射日光の当たらない平らな以下のような場所が良いでしょう。



捕獲されたアライグマとタヌキ

### 正しく囲い、その周辺で捕獲する

- ① アライグマが集まっている場所
- ② 河川、用排水路などの水辺の近く
- ③ 水辺から農地への移動経路沿い
- ④ 農地や作業小屋、畜舎などの外縁



アライグマ捕獲におけるわな設置適地のイメージ

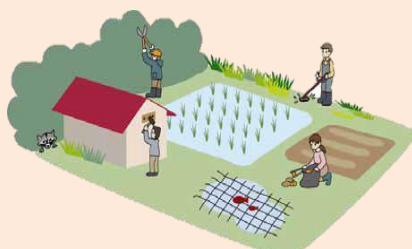
# 被害を防ぐ環境管理の6つのポイントと防止柵

アライグマは行動圏が広く複数個体で行動し、環境要因により移動し、樹上での活動も得意なので農地等への侵入を防止することが困難な動物です。

アライグマが地域に定着することを未然に防ぐには、廃棄した作物や収穫しない作物を放置しないようにし、意図しない餌付けに十分注意することです。

また、アライグマは水辺（河川や水路、側溝等）や藪、森林を主な移動経路としているので、アライグマの侵入防止にはそうした場所の周辺での対策が重要となります。

- ✓ポイント① 農地や人家の周辺に廃棄作物や家庭ごみを放置しない
- ✓ポイント② ペットの餌の食べ残し、お墓のお供え物などを野外に放置しない
- ✓ポイント③ 池などで魚などを飼っている場合には金網で池を覆う
- ✓ポイント④ 家屋への侵入経路となるような木の枝などは切る
- ✓ポイント⑤ 家屋への入り口となるような壁の穴などは塞いでおく
- ✓ポイント⑥ 絶対に餌を与えない

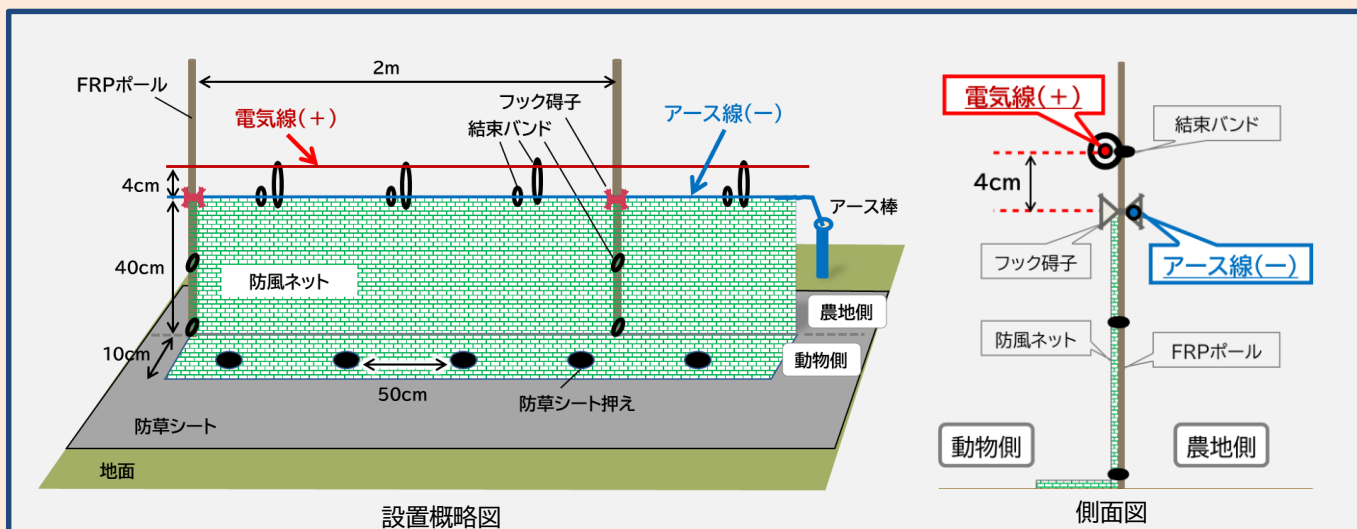


(イラスト:野生鳥獣被害防止マニュアル～特定外来生物編～ 平成22年3月 農林水産省発行)

## 防草シート上でも使えるように改良した 中型動物用(アライグマ等)侵入防止柵「楽落くんライト」

中型動物(アライグマ等)用侵入防止柵「楽落くんライト」は侵入防止効果が高いですが、繁忙期の草管理に手が回らないため導入できないという意見があります。「楽落くんライト」の下に防草シートを敷設することで草管理労力は軽減できますが、防草シート上で獣が電気線に触れても十分な電気ショックを与えることができません。

そこで、「楽落くんライト」に、アース線を追加し、防草シート上で使用できるように改良しました。



- ✓アライグマが柵を乗り越えようとする時、前足で電気線とアース線を同時に触ることにより十分な電気ショックを与えることができます。
- ✓アース線は電気線の4cm下方、FRPポールの農地側を通るように設置することで、アライグマが電気線を押下げた際、電気線とアース線の接触しないようにします。
- ✓アライグマなどによりアース線が押し下げられ電気線とアース線の間が大きく開くと感電せずに侵入することがあるため、結束バンドで輪を作り、電気線とアース線のすき間が広がらないようにします。

必要な資材 (100m当たり)

資材名	規格	数量
防草シート	※圃地条件により選択	- 巻
防草シート押え	20cm×100個入り	2 袋
電気柵用線	500m(1巻)	0.4 巻
防風ネット	0.5m×50m 目合4mm	2 巻
FRPポール	14mm×90cm	50 本
フック碍子	50個入り	1 袋
結束バンド	100mm 100本入り	10 袋
結束バンド	150mm 300本入り	0.7 袋
電牧器	電気線の長さにより選択	1 台

# アライグマと似た中型動物の見分け方

## アライグマ 食肉目アライグマ科



尾は縞模様



前足



後足



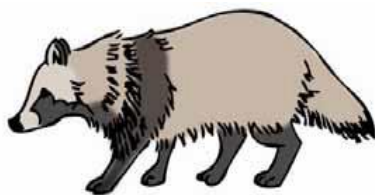
特徴的な尾の縞模様は他の動物と見分けるポイントになります。顔は目の周りが黒く、白い眉があるように見えます。四肢とも長い5本の指があり器用に物をつかむことができ、足跡全体の形は人の手形に似ています。

頭胴長：42～60cm 尾 長：25～30cm  
体 重：4～10kg

## タヌキ 食肉目イヌ科



肩の様子は遠くからも目立つ



前足



後足



顔は目の周りは黒く、アライグマに間違われやすいですが体毛は全体的に茶色が強く、尻尾は短く縞模様がなく四肢は黒色です。

頭胴長：50～60cm 尾 長：13～19cm  
体 重：4～8kg

## ハクビシン 食肉目ジャコウネコ科



尾は猫のように細長い



前足



後足



アライグマに比べ体は小さく、鼻筋に太く入った白い線が特徴です。体全体と尾は細長く、尾に縞模様はありません。木登りが得意で雨樋など爪が掛からない構造物でも登ることが出来ます。

頭胴長：50～75cm 尾 長：約40cm  
体 重：4～12kg

## アナグマ 食肉目イタチ科



前足



後足



ずんぐりとした丸っこい体形で四肢は太短く、爪は鋭く長いのが特徴です。穴を掘って生活しています。顔から上半身にかけては白っぽい毛で覆われ、尾は長い毛に覆われ太く、縞模様はありません。

頭胴長：40～50cm 尾 長：6～12cm  
体 重：4～12kg

(イラスト:野生鳥獣被害防止マニュアル～特定外来生物編～ 平成22年3月 農林水産省発行)

作成：三重県農業研究所 TEL 0598(42)6356

発行・問い合わせ先：三重県農林水産部獣害対策課 TEL 059(224)2017

(当資料はHPからダウンロードできます <https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/000051663.htm>)

